

(2)「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン(京都市TDM施策総合計画)

ア プランの構成

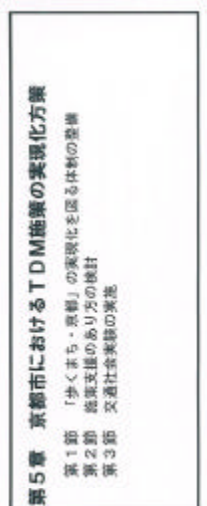
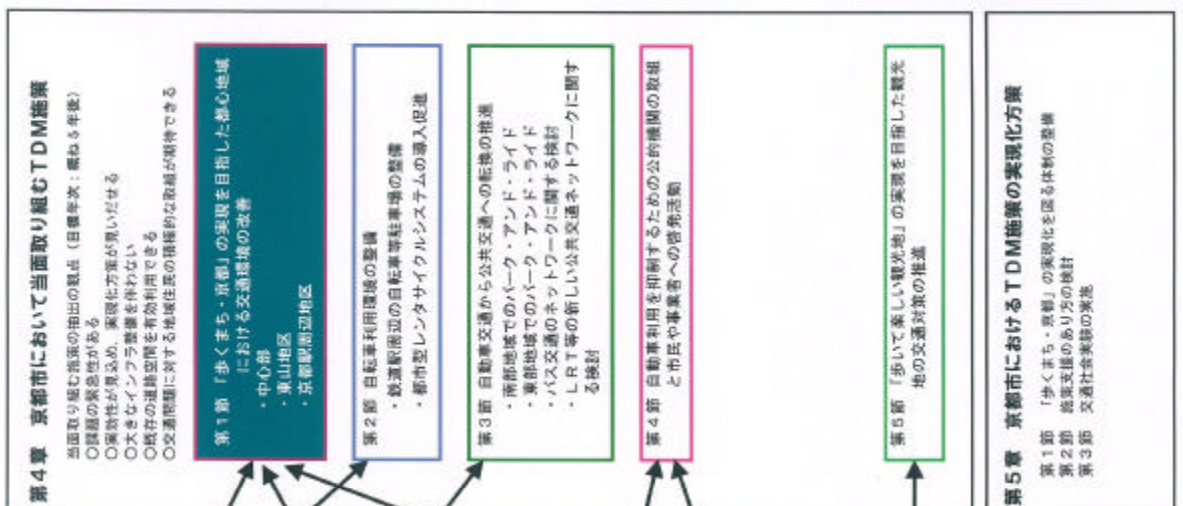
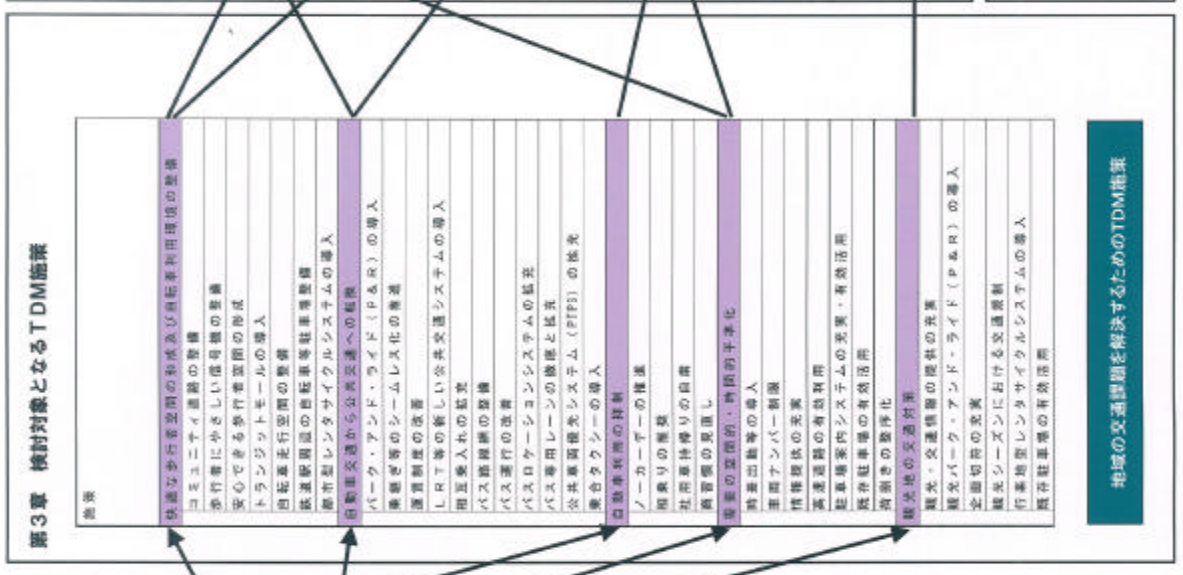
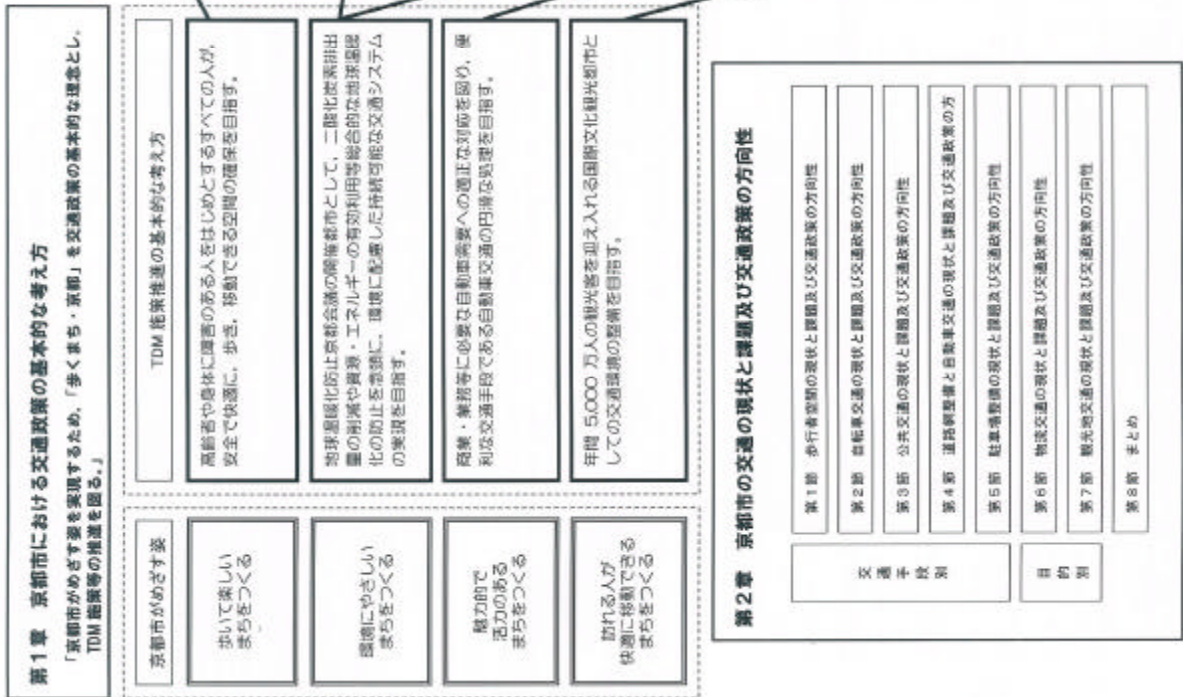
高齢者や身体に障害のある人をはじめとするすべての人が安全で快適に、歩き、移動できる、「歩くまち・京都」の実現を目指して、今後、TDM施策(交通需要管理施策)に取り組んでいくための指針として、平成15年6月に策定されました。

「歩くまち・京都」を交通政策の基本理念とするとともに、「歩く&自転車に乗る」、「車から乗り換える」、「観光地の車を減らす」など5つの柱で構成し、安心できる歩行者空間の形成、観光及び交通情報の提供の充実、パーク&ライドの導入など36の施策を掲げています。

また、第3章第2ないし8節において、地域ごとのTDM施策の方向が整理されており、対象地域を含む都心地域については、第3節において、「都心地域におけるTDM施策」として示されています。

また、第4章において、目標年次を概ね5年後とする「京都市において当面取り組むTDM施策」が5つ示されており、その1つとして、「歩くまち・京都」の実現を目指した都心地域(中心部・東山地区・京都駅周辺地区)における交通環境の改善」が掲げられています。

「歩くまち・京都」交通まちづくりプランの構成



項目は次のとおりです。

快適な歩行者空間の形成及び自転車利用環境の整備

- ア 歩行者にやさしい信号機の整備
- イ 安心できる歩行者空間の形成
- ウ トランジットモールの導入
- エ 鉄道駅周辺の自転車等駐車場整備

自動車交通から公共交通への転換

- ア バス路線網の整備
 - 需要の空間的・時間的平準化
- ア 車両ナンバー制限
- イ 駐車場案内システムの充実・有効活用
- ウ 既存駐車場の有効活用
- エ 荷捌きの整序化

観光地の交通対策

- ア 観光及び交通情報の提供の充実
- イ 観光シーズンにおける交通規制

全文は次のとおりです。

都心地域については、公共交通網や道路網の整備状況、交通特性等を勘案して、京都市の商業・業務機能が集中する四条烏丸や四条河原町等を中心とする「中心部」、南北に連なる観光地を中心とする「東山地区」、さらには、京都駅を中心とし南部地域との結びつきも強い「京都駅周辺地区」の3地区を、特徴のある場所として捉えて、それらの地区において、「歩くまち・京都」の実現のため、当面、次のようなTDM施策に取り組む。

中心部

都心地域の中心部は、京都市の中心的な商業集積地であり、また、市内や市外から多くの人が集まる市内でも交通が集中する地域であるとともに、鉄道やバスの整備された公共交通の利便性の高い地域である。このため、これらの公共交通を効率的に運用し、徒歩と公共交通を基本とした移動を実現すべき地域であると言える。このような地域特性に配慮し、都市の賑わいと活性化を図るため、歩行者、自転車及び公共交通の利便性の向上を図るTDM施策を推進する。

このような観点から、京都市は、平成12年から「四条通～河原町通～二条通～堀川通に囲まれた地域」で、「歩いて暮らせるまちづくり」を進めている。その取組の一環として毎年11月に、地域住民や地域商業者等幅広い市民で構成される「歩いて暮らせる街づくり推進会議」により、「まちなかを歩く日」が開催されており、三条通、室町通、新町通等をはじめとして、様々な取組が進められている。

また、京都市は、平成13年3月に、都心地域の三条通（川端通～河原町通）において、車両一方通行規制、歩行者空間の確保、荷捌きの整序化等に向けた交通社会実験を実施している。

一方、平成12年4月から、「四条通～河原町通～御池通～烏丸通」を反時計回りに一方向で循環する「100円循環バス」の試行運行を始め、地域商業者等の協力による様々な交通社会実験を経て、平成13年4月から本運行を行っている。

以上のような取組をさらに充実するため、中心部のTDM施策として、円滑な自動車交通の確保に配慮しながら、自動車の流入抑制のための効果的な交通規制等、荷捌きの整序化、信号抑制の運用等の検討を進め、さらには、自動車のための道路空間を歩行者へ開放し、歩行者の円滑な移動を支える公共交通の整備を行う施策であるトランジットモールについても検討し、安全で快適な歩行者空間の形成を図る。また、トランジットモールは、単独では実施できないものであることから、これと組み合わせるべき施策として、既存バス路線網の再編を含めたバス路線網の整備等の施策についても検討する必要がある。

なお、中心部は利害関係者が多いことから、この地域に主として関わっている地域住民、地域商業者、学識経験者、交通事業者、行政等が議論できる場の設定が不可欠であり、そこで実現までの過程等を十分に議論することが重要である。